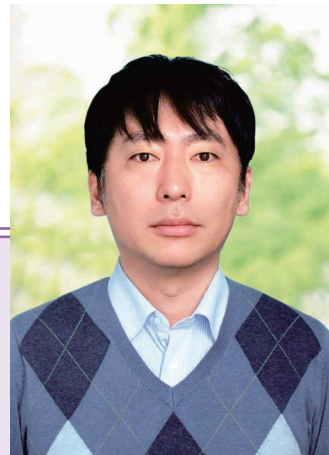




「学び」は日々進化している

経営学部
豊田 寿行 准教授



2020年といえば、東京オリンピックを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、教育関係者は「教育改革」が頭に浮かびます。ひとことでこの教育改革を説明することは難しいのですが、簡単にいいますと、学校教育、入試、英語教育の3つが大きく変わります。そこで、来たる教育改革のうちで、学校教育の改革について考えてみたいと思います。

今回の学校教育の改革は「学び」の改革といえます。ここで、「学び」という言葉にどのようなイメージをもちますか？「何を学ぶのか」、「どのように学ぶか」、はたまた「学んだ結果、何が身につくのか」などをイメージすることが多いと思います。これまでの学校教育では「何を学ぶのか」に重きが置かれていました。しかし、「どのように学ぶか」、さらには、「学んだ結果、何が身

につくのか」まで要求しているのが今回の学校教育の改革の特徴のひとつです。

従来型の教育形態である知識伝達型の「講義」は「何を学ぶのか」に特化するものでした。そこで、「どのように学ぶのか」、そして、「学んだ結果、何が身につくのか」に対応するために学習者主体型学習である「アクティブ・ラーニング」が盛んに行われています。アクティブ・ラーニングは一方的に講義を聞くのではなく、学習者がグループで議論したり、プレゼンテーションをしたり、学習者同士で学んだことを共有する学習者の能動的な学びをいいます。アクティブ・ラーニングの導入によって、学習内容の定着率が向上し、獲得した知識や経験を応用する能力が身につくといわれています。

ここでアクティブ・ラーニング、つまり学習者が主体的に学ぶということは革新的な学びの変化ではありません。実は、これまでもずっと行われています。大学でいえば、研究室でのゼミ活動はまさしくアクティブ・ラーニングだといえます。ただ、アクティブ・ラーニングの比重を高めていく必要性を指摘しているのが今回の改革です。教育にたずさわるものとして、教育内容、教育手法等、日々、改善に努め、学生の成長を促進させることが重要です。そのためにも、「学び」の変化への対応が常に必要であり、そして、「学び」は進化し続けなければならないのです。

人事報告

着 | 任 | 挨 | 拶 | 本年4月より、4名の教員が着任いたしました。



本年4月に経営学部に着任いたしました。

担当科目は会計学入門、財務会計及び経営分析です。前職は、監査法人で勤務し、上場企業の会計監査を担当していました。生まれは和歌山県で、大阪、ドイツ、東京で勤務し、監査で全国各地の会社を回りました。会計学は、あらゆる分野で必要とされ、社会人として必要な知識です。会計で使用される財務数値は、英語と同じように万国共通言語です。監査法人時代に培った経験を活かして、授業では、会計学の理論が実務にどのように適用されるかを講義し、また、会計学の面白さと考え方が皆さんに伝わるように、会社の経理・財務の現場では何が起きているかをお話したいと思います。皆さんが社会人として、グローバルに活躍できるためのお手伝いを、本学で出来ればと考えています。

経営学部 柳 年哉 教授



着 | 任 | 挨 | 拶 | 本年4月より、4名の教員が着任いたしました。



本年4月に経営学部に着任いたしました。

本学では、「地域振興論」「観光経営論」等の講義を担当いたします。私の生まれは鹿児島県ですが、福岡県や佐賀県での大学および研究生生活を出発点とし、愛媛県の農協での農業振興計画の策定業務や、北海道の民間の調査・研究機関での研究業務など、地域の抱える問題を、主に農業分野に焦点を当てて研究してまいりました。少子・高齢化や過疎化などの問題を抱える「地方」と呼ばれる地域において、農業は地域経済を支える重要な産業の一つであり、地域活性化の様々な取り組みの中心となりうる重要な地域資源の一つであると考えています。鳥取県を舞台として、「地方」が元気になるための方策を皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

経営学部 **山口 和宏** 講師



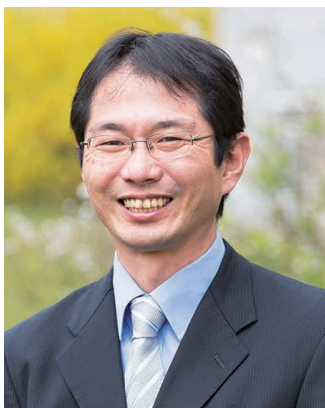
現在、世界中の人々が共通語として英語を使用する時代となっています。そのため、一般的な標準英語以外にもさまざまな種類の英語が使用されています。インド式英語、中国式英語、日本式英語等です。そこで、私たちも従来の英語の勉強方法を変えていかなければならなくなりました。

2021年度入試から実施される大学入学共通テストは、「読む・聞く・話す・書く」という英語の4技能を見極めるための新しい試験方法になります。従来の英単語や文法の知識を問うテストから、英語を使った表現能力を測るテストに変わります。

そのため、英語の学習理念と目的をより柔軟かつ多様に考える必要があります。4技能は、いずれも重要である事は間違いありませんが、その中でも特に「話す」に関しては、単に「話す」ということだけではなく「コミュニケーション能力」を身に付けておくことが重要です。

学生たちが様々な国の人たちと積極的にコミュニケーションが図れるよう、共に努めたいと思っております。

人間形成教育センター **徳山 瑞文** 教授



2016年4月より3年間、本学地域イノベーション研究センターの特命准教授として勤務し、この4月に人間形成教育センターの准教授に着任しました。改めまして、よろしくお願いいたします。

私は27歳の時に鳥取に移住し、ここに住み始めて今年で18年目になります。その間、私の専門である「海」「魚」「水産業」を通して、この地の美しい自然とふれあい、そして多くの人と出会いました。鳥取は自然の豊かさと人の優しさを感じることが出来る素晴らしい所で、住めば住むほどこの地域が好きになります。学生の皆さんとこの鳥取の素晴らしさを共有できるよう、一緒に学外に出て行きたいと思っております。私の専門のことに限らず、どんなことでも気軽に相談していただければ嬉しく思います。

人間形成教育センター **太田 太郎** 准教授